

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第5号

1. 気象概要（アメダス：唐津地点）

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8
7	1	24.7	23.9	28.0	27.6	22.2	21.2	87.3	252.5	15.2	9.5
	2	25.3	27.7	28.7	32.2	22.8	24.0	92.9	11.0	19.9	44.7
	3	26.0	29.6	29.6	34.3	23.2	25.5	74.1	0.0	26.4	48.6
	4	26.6	29.7	30.5	34.6	23.6	26.4	45.1	0.0	31.7	39.2
	5	27.3	29.1	31.4	35.0	24.3	24.8	26.5	0.0	35.6	55.8

7月2半旬～7月5半旬までの平均気温は平年より2～4℃程度高く、降水量はかなり少なく（平年比5％）、日照時間は長く、高温少雨傾向で推移している。

気象庁が発表している九州北部地方の1か月予報では、向こう1か月の気象は、晴れの日が多く平均気温は高くなる確率が高いと予想されている。

2. 生育状況（調査日：7月30日）

項目 品種 (設置場所)	年 次	出穂期	止葉葉位	概 要
コシヒカリ 唐津市厳木 町天川 5/16 移植 標高 550m	本年値	7月28日	12.7	・出穂期は平年より4日早くなった。 ・止葉葉位は平年並み
	平年値	8月1日	12.8	
	平年比	-4日	-0.1	

項目 品種 (設置場所)	年 次	草丈 cm	茎数 本／㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 唐津市相知 町伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	78.8	303	11.7	38.9	・草丈は平年並み ・茎数は平年より少ない ・出葉は平年より早い ・葉色は平年より淡い
	平年値	78.7	325	11.2	40.1	
	平年比	100	93	+0.5	-1.2	
項目 品種 (設置場所)	年 次	草丈 cm	茎数 本／㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 唐津市相知 町相知 6/20 移植 標高 10m	本年値	68.0	520	11.7	40.0	・草丈は平年よりやや高い ・茎数は平年より多い ・出葉は平年並み ・葉色は平年並み
	平年値	65.5	480	11.9	40.3	
	平年比	104	108	-0.2	-0.3	

※平年比の【草丈】【茎数】は平年比、【主稈出葉数】【葉色】は平年差で表記している。

(1) 山間早植え

- ・作況ほの「コシヒカリ」の出穂期は7月28日となり、平年より4日早い出穂となった（平年値8月1日）。
- ・下位葉のいもち病斑は確認しているが、穂いもちは認められていない。
- ・ウンカ類の払落し調査では、セジロウンカの幼虫1頭を確認した。

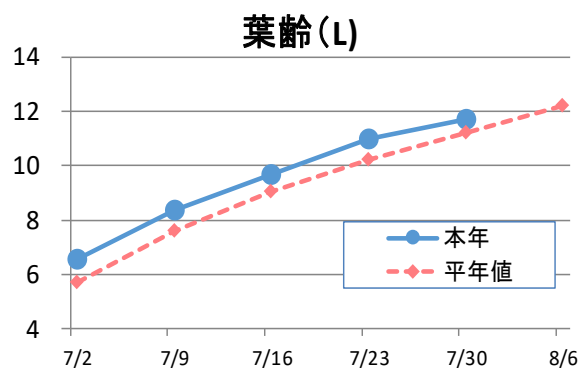
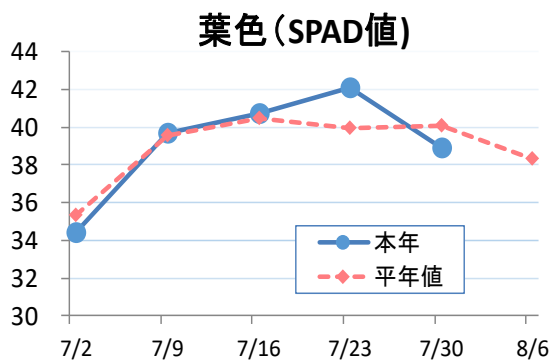
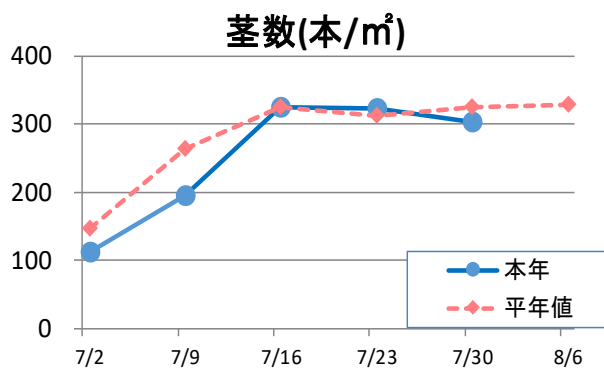
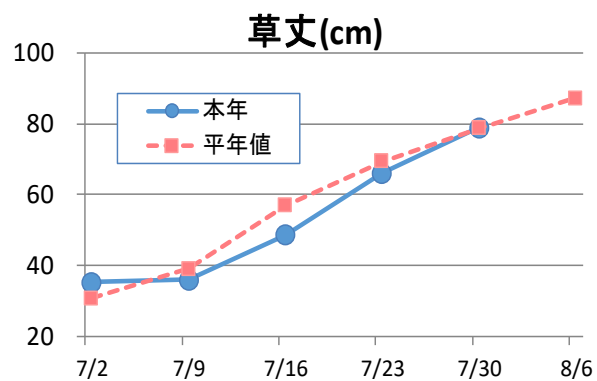
(2) 普通期水稻

- ・7月2半旬以降、高温多照傾向で推移していることから、作況ほの「夢しずく」及び「さがびより」両品種ともに生育は回復した。
- ・「夢しずく」は、幼穂形成期を迎えており、「さがびより」はまもなく幼穂形成始期を迎える。
- ・ウンカ類の払落し調査では、下表のとおりウンカ類の幼虫を確認している。
- ・7月上旬以降、全品種においてコブノメイガによる食害が増加している。

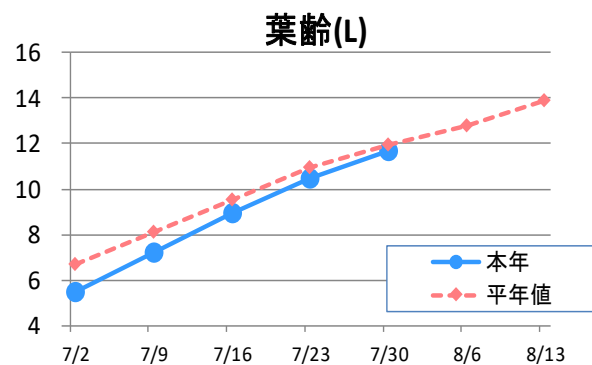
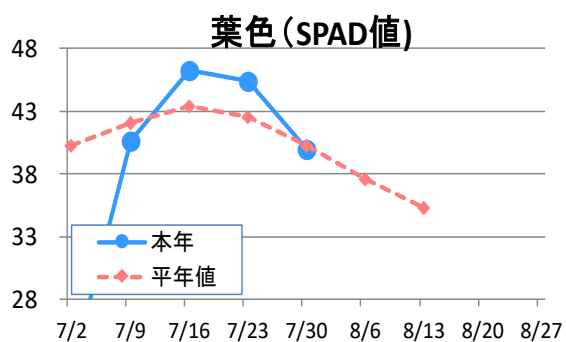
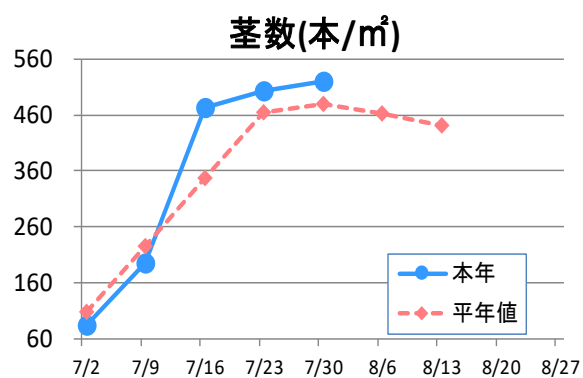
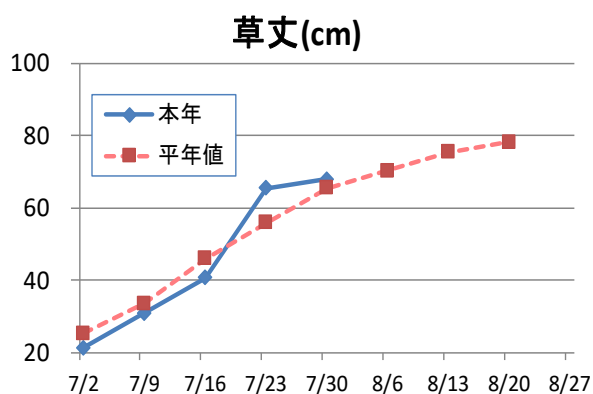
●ウンカ類発生状況調査結果（25株払い落とし）

調査地	トビイロウンカ				セジロウンカ				ヒメトビウンカ			
	成虫	幼虫			成虫	幼虫			成虫	幼虫		
		老齢	中齢	若齢		老齢	中齢	若齢		老齢	中齢	若齢
①	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
②	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
③	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

◎「夢しずく」作況ほの生育グラフ（相知町伊岐佐）



◎「さがびより」作況ほの生育グラフ（相知町相知）



3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

《水管理》

- ・穂が出そろって以降は、収穫約1週間前の落水時期まで間断灌水を継続する。
- ・断続的な降雨により十分な中干しができなかった圃場では、間断灌水の落水期間を長めにとるなどして田面を固める。

(2) 普通期水稻

①栽培管理

《水管理》

- ・6月上旬移植の「夢しずく」では幼穂形成期となっていることから間断灌水の水管理へと移行する。
- ・6月中旬移植の「さがびより」では、まもなく幼穂形成始期を迎えることから中干しは終了し間断灌水の水管理へ移行する。

《肥培管理》

- ・6月上旬に移植された「夢しずく」では、穂肥の時期は過ぎている。
- ・6月中旬に移植された「さがびより」では間もなく幼穂形成始期を迎えるため、次表の穂肥診断基準に基づき、施用時期を逸しないよう穂肥を適切に施用する。
- ・今後も気温は高く推移する予報であり、穂肥を施用しない場合は登熟期の栄養不足により品質の低下が懸念されることから、緩効性の基肥一発肥料を使用しておらず葉色が褪めている圃場では積極的に穂肥を施用する。

1)「さがびより」の穂肥診断基準

早過ぎる穂肥は籾数の過剰につながるので注意する。

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		施用量
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg / 10a
75cm 以下	3.0 以下	33 以下	20-18	5mm	3.0
	3.0 -	33-37	18-17	10mm	3.0
	3.3				
	3.5 -	37-38	17-16	15mm	2.0
	3.8				
	3.8 以上	39 以上	施用しない		
75 ~ 80cm	3.0 -	36 以下	18-16	10~15mm	1.5
	3.3				
	3.5 以上	37 以上	施用しない		
80cm 以上	施用しない				

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

(3) 病虫害・雑草管理（山間早植・平坦普通期共通）

≪病虫害関係≫

①トビイロウンカ

- ・佐賀県農業技術防除センターの調査では、次ページの表のとおり6月上旬から複数回にわたって、断続的な飛来が確認されている（表1）。
- ・発生状況は圃場毎のウンカ類の定着度合にも左右されるため、圃場での発生状況を把握するとともに、次ページの発生予測図（図1）を参考に適期防除に努める。
- ・防除は、効果の最も高い幼虫ふ化揃期に実施するとともに、圃場は湛水状態とし、薬剤は株元まで届くように留意する。

②コブノメイガ

- ・7月10日頃から、本虫による食害が増加している圃場が散見される。
- ・発生予察情報を参考として、圃場での発蛾最盛期（成虫発生盛期）を確認し、その1週間後に防除を行う。なお、大規模経営など発蛾最盛期の把握が困難な場合はカルタップ粒剤などを用いた防除を検討する。

表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2026年)

月	日	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ						
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県						
		佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップ	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップ	佐賀市 フェロモン トラップA	佐賀市 フェロモン トラップB	神埼市 粘着トラ ップ(20W蜜)	伊万里市 フェロモン トラップ	白石町 フェロモン トラップ	武雄市 粘着トラ ップ(20W蜜)	長崎県 諫早市 フェロモン トラップ
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	2日	0	欠測	0	0	0	欠測	0	0			0			0	0
	3日	欠測	1	0	0	欠測	0	0	0						0	0
	4日	0	0	0	0	0	17	0	1	0					0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	1	0					0	1
	6日	0	1	0	0	0	1	1	0			0			0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	1
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0						0	1
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0						0	0
	16日	0	0	0	0	0	1	0	0			0			0	0
	17日	0	1	0	0	0	1	0	0						0	0
	18日	0	4	0	0	0	4	0	0	0					0	0
	19日	0	0	0	0	0	1	0	1	0		0			5	6
	20日	0	8	0	0	0	4	0	0			0				44
	21日	0	0	0	0	0	0	0	1							8
	22日	0	0	0	0	0	1	0	0							12
	23日	0	0	0	0	0	2	0	0			0	2		22	6
	24日	0	0	0	0	0	29	4	0							11
	25日	0	0	0	0	0	47	0	0	0						1
	26日	0	1	0	0	0	106	4	0			0			10	0
	27日	0	1	0	0	0	11	0	0			0	1	0		1
	28日	0	0	0	0	0	4	0	1					0		0
	29日	0	0	0	0	0	1	0	0	0						0
	30日	0	0	0	0	0	3	0	0	0		0	3	0	1	0
7月	1日	0	12	0	0	0	7	1	2	0	0					0
	2日	0	11	0	0	0	7	5	0	0	0					0
	3日	0	2	0	0	0	8	0	0	0	0	0	4	0	4	0
	4日	0	22	0	0	0	46	2	0	0	0					0
	5日	1	3	0	0	2	32	0	0	0	0					0
	6日	0	99	0	0	2	111	0	0	0	0					0
	7日	0	25	0	0	0	32	0	1	0	0	0	0	0	4	0
	8日	0	3	0	0	1	5	0	0	1	0					0
	9日	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0					0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	12日	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0					0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2					0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	3	0
	15日	0	1	0	0	0	11	0	0	0	0					0
	16日	0	7	0		0	31	0		0	0					0
	17日	0	9			0	67			0	1					0
	18日	0	9			1	48			0	0	0	0	8	1	0
	19日	0	5			1	37			0	0					
	20日	0	5			0	6			0	0					

注1) ウンカ類：佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査（回収日で集計）。嬉野ライトトラップ（予察灯）は農業技術防除センターで調査。6月1～2日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2) コブノメイガ：神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病虫害発生予察室提供。

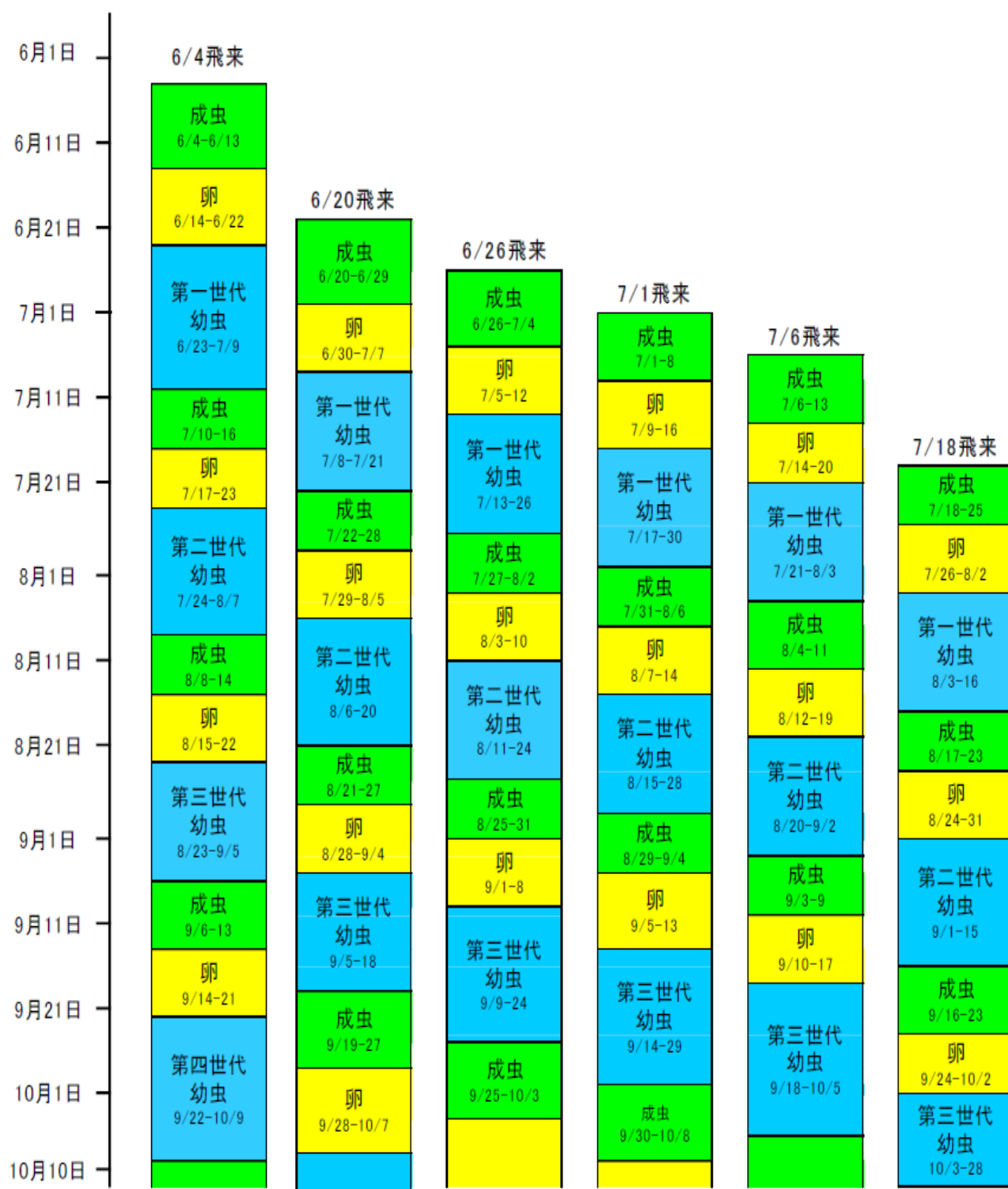


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2026年7月26日作成）

1. 6月3～6日頃（図では6月4日）、6月17～20日頃（図では6月20日）、6月26～27日頃（図では6月26日）、7月1～2日頃（図では7月1日）、7月4～6日頃（図では7月6日）、及び7月16～20日頃（図では7月18日）の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月26日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。

2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。

3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

③いもち病

- ・6月下旬～7月上旬が曇天傾向であったことから、各品種の下位葉においていもち病斑を確認している。
- ・7月2半旬以降、好天に恵まれていることから病斑の進展は見られていないが、山あいの圃場や毎年本病が発生する圃場では、特に今後の発生状況に十分注意する。
- ・上位葉にいもち病の進展型病斑が確認された場合は、農薬成分カウントや収穫前日数に留意しながら、オリブライト 250G 等で臨機防除を実施する。



いもち病（停止型）



いもち病（進展型）

④紋枯病

- ・高温多湿条件で多発する。
- ・今年は、夏季が高温になる予報であることから、本病の発生に注意が必要である。
- ・本病が多発した場合、稲体の支持力低下により倒伏が助長され、収量品質の低下や収穫作業への支障を招くため圃場の発生状況に応じて適切に防除を実施する。
- ・粒剤の場合は出穂の30～20日前、水和剤及び粉剤の場合は出穂の20～10日前を中心に防除を行う。



紋枯病の病斑



被害株に形成された菌核

⑤カメムシ類

（斑点米カメムシ類）

- ・県では、すでに早期水稻に出していた注意報に加え、早植え水稻及び普通期水稻を対象に令和8年7月29日に注意報を発令した。今後、普通期水稻では8月中旬頃から出穂時期を迎えることから、以降を参考に適切に防除を実施する。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

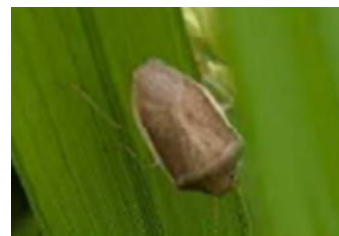


アカスジカスミカメ

- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となるため、耕種的防除として出穂 10 日前までに除草作業を行う。それ以降に除草作業を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長される。
- ・斑点米カメムシ類の防除適期は、乳熟期（出穂約 10 日後）、発生が多い場合は穂揃い期と乳熟期の 2 回防除を実施し、被害防止に努める。

（イネカメムシ）

- ・出穂期にイネカメムシに加害されると不稔粒となり減収となる。
- ・近年、県内においても発生が確認されており、被害の拡大が懸念されている。
- ・特に周辺より出穂が早い、または遅い圃場では飛来が集中し被害が大きくなる可能性があるため、圃場をよく観察し、発生が多い場合は、出穂期の防除を行う。



イネカメムシ

※穂ぞろい期や乳熟期に防除を行う斑点米カメムシとは防除適期が異なるため注意する。

一部抜粋

佐農技防第 385 号
令和 8 年 7 月 29 日

病虫害発生予察注意報第 4 号

佐賀県

作物名：早植え及び普通期水稻

病虫害名：斑点米カメムシ類

1. 注意報の内容

発生地域：早植え及び普通期水稻栽培地域

発生量：平年より多い



クモヘリカメムシ成虫

2. 注意報発令の根拠

1) イネ科雑草地での発生状況

7 月 15～21 日に行ったイネ科雑草におけるすくい取り調査（18 地点）では、クモヘリカメムシの成虫・幼虫ともに平年より多く、ホソハリカメムシの成虫は平年よりやや多く、幼虫は平年より多かった（表 1）。これらは斑点米を生じやすい種であり、幼虫の発生も多いことから、今後も発生が多く推移すると考えられる。

表 1 イネ科雑草における斑点米カメムシ類のすくい取り調査結果（7 月後半調査）

	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アサジガカメムシ		シロホリカメムシ類		ミナミアカメムシ	イネカメムシ	
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	成虫	幼虫
本年（R8）	15.2	11.0	2.6	1.4	0.3	0.1	8.8	6.7	0.06	0.3	0
平年比	多	多	やや多	多	並	やや少	やや少	並	並	多	並
平年	2.9	3.0	1.9	0.5	0.2	0.5	13.3	7.6	0.03	0.02	0
前年（R7）	1.7	0.6	4.1	0.1	0.1	0.6	14.2	8.6	0.2	0.2	0

注）表中の数値は、すくい取り調査（捕虫網 20 回振り）における地点当たりの平均捕獲虫数。

平年値は過去 10 年（H28～R7）の平均値。

令和8年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター

